



日程：2016年8月5日（金）

参加：7生協60名（大人53名、子ども7名）※事務局含む

内訳：パルシステム東京13名、東都生協6名、

東京南部生協3名、東京ほくと医療生協4名、

東京保健生協17名、全労済東京都本部14名、

東京都生協連3名



ポスト被爆70年の年、71年前のきのこ雲の下での出来事や高齢化が進む被爆者の想いを学ぶ場として、また、核兵器の非人道性、核兵器をめぐる世界の情勢やさまざまな人が取り組んでいる平和の活動を知り、平和な社会への想いを新たにする場として今年もピースアクション in ヒロシマを開催しました。

今年度も、各生協ではそれぞれ独自に事前学習を行い、日本生協連などが主催する子ども平和会議や虹のひろばに参加しました。東京都生協連主催の「被爆者との交流」では、被爆者の方から証言をお聴きし、夕食を摂りながら参加者どうし交流をしました。

最終日には平和記念式典にも参列し、核兵器廃絶と世界恒久平和の実現に向けてみんなで願いを込めました。

### ◆虹のひろば 広島県立総合体育館グリーンアリーナにて

オープニングは、私立広島文教女子大学付属高校和太鼓部による和太鼓の演奏。  
広島県内唯一の女子高校生だけの和太鼓団体として平成6年に創部されたそうです。



講演は、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）の岩佐幹三さんのお話で、日本被団協60周年の取り組みについての報告をお聞きました。



《原爆の絵》



《爪楊枝アート》

虹のステージでは、「若者からのリレーメッセージ」として、広島県立福山工業高校、広島市立基町高校、私立近畿大学付属広島高校・中学校東広島校の生徒さん達が取り組んだ作品の紹介がありました。CGを用いて原爆投下後の広島を復元したもの、被爆体験証言者と共同で取り組んでいる「原爆の絵」、原爆ドームの爪楊枝アートなど、次世代を担う若者から平和への想いが発信され、しっかりと「継承」されている様子が伺えました。

### ◆みんなのひろば 広島県立総合体育館グリーンアリーナにて

広島市立基町高校の生徒が被爆体験証言者と共同で作りに上げてきた「原爆の絵」の展示や安田女子大学書道部による大書パフォーマンス、核兵器を取り巻く現状についてのO×クイズなど、様々なコーナーがありました。



フィナーレは、「2016子ども平和会議」の取り組み紹介とアピール文の読み上げ、虹のひろば合唱団による平和のうたの合唱でした。

## ◆「被爆者との交流～被爆証言をお聴きする集い～」&交流会 広島YMCAにて

今年の被爆証言は、広島医療生協原爆被害者の会の綿崎直子さんと瀧本清也さんのお二人からお話をお聴きしました。今年も広島医療生協の福原優子さんに進行のお手伝いをしていただきました。綿崎さんは当日の様子を絵に描き、瀧本さんは地図を用いてお話しくださったので、当時の凄まじい様子がとてもよくわかりました。お二人とも、核兵器は二度と使わないで欲しい、未来を生きる子どもたちのために、核兵器のない平和な世界を願っているとおっしゃっていました。私たちは、被爆者から直接証言を聞ける最後の世代とされています。次世代に語り継いでいくために、私たちに何ができるのかを改めて考える、良い機会となりました。証言をお聴きした後は、各生協からそれぞれの活動の取り組みの様子やピースアクションの感想などを聞き、交流を図りました。



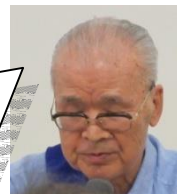
《綿崎直子さん》

自宅の玄関先で学校に行く準備をしていて被害に遭った。2歳の弟は家具の隙間から這い出して逃げてきた。6歳の妹は外にいたため大やけどをおった。歩ける状態ではなかったので、板に載せて運んだ。鉄の炊飯釜が爆風で吹き飛んだ。貧しかったので中学を出てすぐに働きだしたが、その後病気になってしまった。いろいろ苦労があったが、結婚し、子ども2人孫5人に恵まれることができた。



～お二人を囲んで（一部）～

当時は広島市内の陸軍幼年学校に在学中だった。その日はたまたま疎開していたが学校に戻ることになり、原爆投下後の爆心地に向かって仲間と一緒に歩いて行った。目印になる建物が全て燃えて無くなっていたので方角が分からなかった。線路を伝って歩いた。枕木が燃えていた。常識では考えられない光景だった。歩いているとどこからか助けを求める声が聞こえてきたが助けてあげられなかった。臭いにおいがしたので手拭いで口を覆った。生まれて初めて見た死体は黒焦げで首がなく、物体のようだった。



《瀧本清也さん》



### 参加者アンケートより



- 瀧本さんは市内を横断されていて、それぞれの地点で起こったことを丁寧かつ簡潔にお話下さり分かりやすかったです。当時市内を横断された方々はそう多くないと思うので、そのお話を伺えたのは本当に貴重なことだと思います。綿崎さんも「のんき」と仰いながらも、亡くなられた妹さんや弟さん、生まれるお子さん、お孫さんのことに悩まれていたということに胸が痛みます。お二人とも今日まで生きられて多くの人達にご自身の経験を話して下さっていることに大きな感謝を伝えたいです。（10代女性）
- 被爆者の方複数の話を聞いて、ひとりひとり違う状況で被爆されたのに、共通して言われたのが「生き残ったことがつらかった」「自分のことで精一杯で他の人を助けられなかったこと、助けを求めの人を見殺しにした」と後悔や悲しさを背負って生きてこられたということでした。「生き延びられて良かった」と思うことすらできなかったなんて、どんなにつらいことだろうか想像もつきません。「原爆のない世界」を心から実現したいと思うし、これから日本が戦争に向かっていくことのないようにと心から思いました。（40代女性）
- 瀧本さん、綿崎さん体験を語っていただきありがとうございました。71年が過ぎても決して薄れることのない過酷で苦しい中で生きてこられ、証言を続けられていることに尊敬いたします。“二度と過ちを繰り返さない”ために被爆体験を聞いた私たちが継承者となれるよう、これからも学び伝え行動すること。戦争や紛争、テロの温床となく差別や貧困がない一人一人が希望や夢を持ち、自由に生きられる公正な社会を目指して活動していきます。お元気で語り部を続けられますように。（50代）

## ◆8月6日(土)平和記念式典 平和記念公園にて

朝から強い日差しが照りつける中、平和記念式典に参列しました。犠牲者を慎む祈りを捧げると同時に、広島市長の「皆様には今後とも絶対悪である核兵器の廃絶と世界恒久平和の実現に向け、共に力を尽くし、行動して下さることを心から期待しています」の言葉がとても心に残りました。

